

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策を伴う ボート競技大会開催に関するガイドライン

(第1版)

2020年7月7日

公益社団法人 日本ボート協会

免責事項

このガイドラインは最良の情報を用いて記載されていますが、使用者の責任において活用するガイドラインです。また、ここに記載された情報またはアドバイスの正確性や漏れに対し、情報やデータの提供、このガイダンスの編集、発行、翻訳、供給または販売に関与した公益社団法人日本ボート協会、個人、企業または組織は、一切の責任を負いません。また、ガイドラ

インの記載内容の不備に起因して直接的または間接的に生じた事象に対しても、一切の責任を負いません。

目次

はじめに.....	3
I. 開催決定までの準備.....	4
1. 開催可否の判断基準.....	4
2. 大会実施の制限の検討.....	6
II. 開催日程決定後の大会準備・計画立案.....	7
1. 一般的な予防方法と一人ひとりの基本的感染対策.....	7
2. 大会開催リスクの評価と緩和措置.....	9
3. 参加者の健康スクリーニング(選手、コーチ、役員 大会関係者).....	9
4. マスク(サージカルマスクなど)と手袋(使い捨てゴム手袋など)の使用.....	10
5. 大会主催者への医療規定と推奨事項.....	10
6. 危機の情報伝達と認識.....	13
7. 大会参加者全員の行動.....	13
8. 会場施設.....	14
9. 参加者登録.....	14
10. 社交行事.....	14
11. 大会主催者スタッフおよびボランティア.....	15
12. 観客エリア.....	15
13. 広報・メディア.....	15
14. 審判.....	15
15. 各参加団体への注意事項.....	16
16. 表彰式.....	16
III. 付表および関連資料・参考文献	18
付属資料1. 大会前健康調査質問票.....	18
参考資料.....	20

別添資料

WHO Mass Gathering Sports Addendum Risk Assessment tools in the context of COVID-19(和訳)

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が4月に発令され、スポーツ活動も自粛を余儀なくされてきました。5月25日には緊急事態宣言が全国的に解除され、社会経済活動が徐々に再開されることになりました。政府、自治体は社会経済活動の制限を段階的に緩和する目安を示し、事業者や関係団体は業種別に再開に向けた感染拡大予防ガイドラインを策定することになっています。

本ガイドラインは現段階の政府の方針やWHOの指針、国際ボート競技連盟(FISA)のガイドラインを踏まえ、国内におけるボート競技大会(レガッタ)を再開するに当たっての道筋や基準を整理し、再開における感染拡大予防のための留意点を整理したものです。また、本ガイドラインに先行し、公益社団法人日本ボート協会はボート競技のトレーニング再開のためのガイドラインを示しています。これらの指針を踏まえ、本ガイドラインでは競技会運営に関わる皆様に情報を提供します。

大会の開催においては開催地域の感染状況に応じて行政や医療機関との協議をした上で、開催の可否を慎重に判断しなければなりません。感染リスクへの対応が整わない場合は中止又は延期、開催のレベル(一部制限等)の判断が必要になります。

万一感染者が出た場合の社会的責任はかなり大きく問われます。主催者及び開催地域を始め、大会参加団体、ボート競技自体へのダメージも大きく、全国のボート競技活動自体の継続が困難になる場合があることを認識しなければなりません。リスクへの対応策として、以下の項目について慎重な検討と準備が必要になります。

I. 開催決定までの準備

1. 開催可否の判断基準

① 政府及び自治体の見解

大会を開催する場合には、政府や開催地の自治体の方針に従うことが大前提であり、事前に各自治体と主催者側とで十分に調整することが必要です。

緊急事態宣言が発出されている状況では、ボート競技大会は中止・延期とするべきです。緊急事態措置の対象とならない自治体においても相対的にリスクの高い自治体との間の人の移動は、感染拡大防止の観点から避けなければなりません。選手やスタッフなどの参加者がどこの県や地方から来ているのかはかなり重要なポイントとなります。適宜規則による来場制限や、大会運営に支障がでない対策を講じる必要があります。

開催や実施の判断に迷った際は、開催地や施設が所在する自治体のスポーツ主管課や衛生部局等へ相談することをお勧めします。

令和2年5月25日時点での内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室によるイベント開催制限の段階的緩和の目安は次表の通りです。

なお、主なボート競技大会の参加人数はエントリーベースの選手数では以下のようになります。これに加えて観客、関係者の人数も考慮する必要があります。

全日本社会人選手権	240名～
全日本大学選手権	1000名～
オックスオード盾レガッタ	400名～
全日本選手権	820名～
全日本新人選手権	750名～

100名規模となると地方大会でも小規模の大会になると思われます。

- 「新しい生活様式」に基づく行動。手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等避けるなど、基本的な感染防止策の徹底・継続。イベント主催者や出演者は「業種別ガイドライン」等に基づく行動、参加者の連絡先把握、接触確認アプリの周知、イベント前後の感染対策（行動管理含む）の呼びかけ。
- 感染拡大の兆候やイベント等でのクラスターの発生があった場合、イベントの無観客化や延期、中止等も含めて、国と連携しながら、都道府県知事が速やかに協力を要請。その際、専門家によるクラスターの発生原因やそれへの有効な対策等に関する分析を出来る限り活用（業種別ガイドラインの改定にも活用）。緊急事態宣言が出た場合、対策を強化。
- 今後、感染状況等に変化がみられる場合、段階的解除の目安の変更や必要な対策等を通知。

<基本的な考え方>

時期		収容率	人数上限
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	屋内	50%以内	100人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	200人
ステップ② 6月19日～ *ステップ①から約3週間後	屋内	50%以内	1000人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	1000人
ステップ③ 7月10日～ *ステップ②から約3週間後	屋内	50%以内	5000人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	5000人
【移行期間後】 感染状況を見つ、 8月1日を目途 *ステップ③から約3週間後	屋内	50%以内	上限なし
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	上限なし

(注) 収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）。

https://corona.go.jp/news/pdf/ikoukikan_taiou_0525.pdf

② 大会開催地自治体の状況

大会を開催する自治体の感染状況は大会開催に大きな影響を与えます。大会開催自治体の新規感染者の発生状況、感染者の中の感染経路不明者の割合、クラスター感染の発生の有無、感染者発生の地域分布は地域での市中感染の有無を判断するうえで重要な要素です。

また地域の COVID-19 感染者専門医療施設のベッドの空き状況に余裕があることや、PCR 検査などの臨床検査体制が確立していることなども重要な要件となります。大会の医療体制を検討し適切に対処できる医療・救護チームが必要に応じ地域の医療機関と連携をとれる体制を構築する必要があります。

大会の開催決定後に地域の感染状況が悪化した場合は感染動向を注視するとともに状況に応じて大会開催の可否を再度検討する必要があります。

また開催地域の住民感情にも配慮が必要であり、地域の社会的状況も考慮に入れるべきでしょう。大会開催においては地域住民の理解を得る努力をすることも重要です。

③ 選手の状況及び動向

大会開催にあたっては大会に参加する選手の所属団体の方針にも影響を受けます。各所属団体の多くがその活動を中止、制限している状況では選手は大会への十分な準

備ができません。大会の公平性を確保するためにも参加クルーの所属団体の活動制限が概ね解除されていることは大会開催の前提条件となります。

また、選手の故障防止の観点から活動再開から大会開催までには一定の準備期間をとることが必要です。日本ボート協会の「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策としてのボート競技のトレーニング再開のためのガイドライン」

https://www.jara.or.jp/info/current/covid19-guide_b.pdf ではクルーボートの練習再開の制限解除は Phase4A 以上の段階となりますので、大会開催は Phase4A 以降の段階で検討されるべきでしょう。大会開催にあたっては各 Phase に入った後に十分な準備期間を経たクルーのみ大会の参加を認めるべきでしょう。

④ 他のスポーツの動向

大会開催においては社会的な影響も考慮する必要があります。地域における他のスポーツ大会の開催動向や地域のイベントの開催状況も大会開催の判断材料となります。

ボート競技は非接触型の屋外スポーツであり選手間の感染リスクはさほど高いものではありません。ボートと大会規模や感染リスクが同程度と思われる他のスポーツ競技の動向を勘案して大会の開催の可否を決定する方が良いでしょう。

2. 大会実施の制限の検討

A: 開催大会の規模の制限

ボート大会の規模は概ね次の4つに分類されます。

- | | | |
|---------------------------|-----|-----------|
| ① 単一団体の部内レース、もしくは小規模な対校戦 | 参加者 | 50名以下 |
| ② 標準的な対校戦、小規模の地方レガッタ | 参加者 | 50～200名 |
| ③ 大規模な対校戦・地方大会、参加者限定の全国大会 | 参加者 | 200～1000名 |
| ④ 大規模な全国大会 | 参加者 | 1000名以上 |

大会開催地においては地域の感染状況に応じてその水域での開催可能な大会規模の上限を決定すべきでしょう。また、大会開催に当たっては同一会場において小規模大会から順に開催実績を積み上げたうえで大規模大会を開催することが望ましいでしょう。

マスターズ、パラアスリートの大会開催は慎重に考えた方が良いでしょう。またインドアローイング大会も開催リスクが高いことを十分配慮する必要があります。

B: 大会開催実施内容の制限

大会開催の実施形態を制限し感染リスクを軽減することも感染対策には有効です。
以下のような開催形態を検討する必要があります。

①通常開催

* 通常に開催できる(戻せる)判断基準を明確にする。大原則として政府や自治体の方針に従う。

②縮小開催

* 参加クルー数の制限(特に感染地域からの参加者の制限など)。

* 開催種目の削減、レース距離の短縮、日程の短縮。

* 代表者会議のオンライン化または中止、開会式、表彰式の縮小・中止

* レセプションパーティー等の縮小、中止

* 企業ブース、屋台営業の縮小、禁止

* 観客の入場制限やゾーニングを実施する(3つの密を回避)。

* 伴走の禁止、ゴール付近の観客集中などの対策を行う(移動・観客同士の距離)。

* メディアの取材制限、観客スクリーン設置の中止、レース結果発表の分散化、オンライン化により密を回避する。

* 観客、参加者のうち高齢者、※基礎疾患のある方、妊婦、小児への対策を行う。

③無観客および非公開開催

* 観覧席を閉鎖、観客の入場を禁止し関係者の削減をする。

* 選手関係者の施設入場制限、メディアの取材禁止。不要不急な大会関係者の施設入場制限。県境を越えて全国から集まる関係者の必要性を再度検討する。

* 重症化しやすい高齢者、※基礎疾患のある方、リスクのある妊婦・小児の関与を制限する。 ※糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている者免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方など

* 駐車場、ボートハウス等施設の使用制限も検討する。

④延期・開催地変更・中止。

II. 開催日程決定後の大会準備・計画

1. 一般的な予防方法と一人ひとりの基本的感染対策

感染と伝播を避けるための基本的なルールは次のとおりです。

- ・ 定期的に水と石鹼で少なくとも 30 秒間、石鹼で手を洗ってください。
- ・ 手で目、鼻、口に触れないようにしてください。
- ・ 咳と呼吸については衛生管理の徹底を実践してください。
- ・ 物理的な距離を保ってください。
- ・ COVID-19 の症状がある場合は自主隔離してください。

新型コロナウイルスの出現に伴い、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策をこれまで以上に取り入れた生活様式を 実践していく必要があります。5月4日に厚生労働省が提示した「新しい生活様式」を参照してください。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
- 遊びに行くなら**屋内より屋外**を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、**症状がなくてもマスク**を着用
- 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底 こまめに換気
- 身体的距離の確保 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- 多人数での会食は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 名刺交換はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

2. 大会開催リスクの評価と緩和措置

大会開催に伴うリスクは開催する大会の条件と大会組織の準備状況により評価されます。

WHO による COVID-19 に伴うマَسギャザリング(多人数集合イベント)のリスク評価ではイベント自体のリスクと開催組織の準備状況をスコア化しイベント開催の総合リスク評価をしています。実際の大会運営に際してはこのようなイベント開催のリスク評価を行った上で運営計画を立案することを推奨します。

関係する人の総数が多く、大会開催地域の医療システムの対応や計画に負担を生じるようであれば、その大会は「マَسギャザリング」と考えられます。大会主催者は日本ボート協会と協調し、WHO 発行の「マَسギャザリングのための COVID-19 リスク評価及び緩和措置チェックリスト」(WHO ウェブサイトから WHO COVID-19 汎用リスクアセスメント Excel ファイルが入手可能です)を参照して大会の評価と予防措置をする必要があります。COVID-19 の流行期に大会運営者に指針を示す運用ツールとして、「リスク評価」と「緩和措置」をスコア化するためのツールを別添資料として提示します(WHO **Mass Gathering Sports Addendum Risk Assessment tools in the context of COVID-19** ;和訳)。大会準備期間から活用し、随時更新されるべき指標です。

ボート競技はいわゆるコンタクトスポーツではなく、リスクの少ないスポーツです。FISA や日本ボート協会が作成したトレーニング再開のためのガイドラインを参照して状況に応じたリスク評価が可能です。

日本ボート協会は大会主催者が保健機関などの地域における利害関係者と協力してリスク評価を実行することを強く推奨します。一方で、ボート競技の大会に適用されるガイドラインに特化した予防措置を地域の保健、行政機関に提示することも重要です。

3. 参加者の健康スクリーニング(選手、コーチ、役員 大会関係者など)

- (1) チームの医療スタッフ(もしくはチームサポートおよび代表者)はボート大会の前 14 日間、毎日定期的にアスリートとサポートスタッフの健康状態をチェックしてください。これには毎日の検温と COVID-19 関連の症状の観察も含まれます。
- (2) 大会主催者による大会スタッフやボランティアの大会前の健康チェックも感染リスクの高い人を除外するためには重要です。
- (3) 参加する選手に事前に診断書や健康診断書を求めるかどうかは関係団体の判断にまかせます。
- (4) 全ての選手、コーチ、役員、大会スタッフと大会に参加する関連者は会場到着時に大会前の健康質問票を記載し、持参してください。テンプレートの質問票は付属資料1あります。
- (5) 大会主催者は会場入りするすべての人の体温を毎日測定してください。体温が 37.5 度以上の人がいいた場合にはマスクを提供し、早急に大会運営本部医務室に報告してくだ

さい。発熱した選手やスタッフは経皮近赤外線モニターによる酸素飽和度を測定してください。参加者登録エリアにおいて体温 37.5 度以上で酸素飽和度 95%以下の人は COVID-19 の可能性ありと評価すべきです。このような手続きを実施する際には地域の保健機関の同意が必要です。

- (6) 大会医師と医療チームは地域の保健機関と連携してこのような手続きについて責任を持つこととなります。
- (7) この健康調査の目的は来場した大会参加者の中で検査が必要な方や保健所等に相談をした方が良い方を見つけることです。
- (8) 毎日の選手やチームスタッフの健康調査はチームドクターかチームの医療スタッフが実施してください。他の大会関係者は会場の入口で組織委員会が実施する検温を受ける必要があります。健康スクリーニング後にその日毎の ID カード(参加者登録証)が有効となります。

4. マスク(サージカルマスクなど)と手袋(使い捨てゴム手袋など)の使用

- (1) 大会でのマスクと使い捨て手袋の使用は、開催地の自治体や保健所の指針に従ってください。
- (2) 十分な社会的距離の確保が得られない場合、ボランティア、役員、および選手と密接に接触する他の参加者(例:登録/認定、ケータリング、計量)はサージカルマスクの使用を強くお勧めします。
- (3) 距離をとることができない状態に対応する場合は、アクリル板などのシールドなどを使用しても良いでしょう。そういったシールドの後ろでは人々はマスクなしで働いても良いかもしれません(地域のガイドラインで許可されている場合)。
- (4) 複数の人が同じものを触るような場所では(レーンナンバーやデッドウェイトの配布の受付業務など)使い捨てゴム手袋を使うことが必要です。(定期的に交換してください)
- (5) 選手とスタッフは、競技会以外の活動中はマスクを着用することをお勧めします。使い捨てゴム手袋とサージカルマスクを着用している場合でも消毒は必要です。大会主催者は、マスクの適切な使用方法をすべての人に伝えてください。暑熱環境でのマスク着用は熱中症のリスクを高める可能性があるので注意が必要です。詳細については、参考資料 2 を参照してください。
- (6) 大会主催者はボランティアを含む大会スタッフに対して、十分なマスクと使い捨てゴム手袋を提供する責任があります。他のすべての参加者は、自分のマスクや手袋を持つてくる必要があります

5. 大会主催者への医療規定と推奨事項

概要および組織対応

- (1) 緊急時の決定を下すための対策本部を予め設置してください。

- (2) 感染症対応を含めた危機管理、医療体制マニュアルを準備してください。
- (3) 財務関連のシミュレーションが必要です。

大会主催者の COVID-19 対応計画

- (1) 大会主催者は、本ガイドラインと地域の保健所や自治体等の指針に基づいて作成した大会独自の医療、衛生計画を作成する必要があります。計画には感染防止の規定と大会で COVID-19 感染疑いまたは確定例が発生したときの対応について明確に記載が必要です。参考資料 3.のチェックリストを参考にしてください。
- (2) 大会の医療責任者はすべての医療行為に責任を持ち、大会主催者の主要メンバーとなります。大会の医療責任者は医師であり、大会中は会場に立ち会い、それ以外の時間帯は連絡可能でなければなりません。医療責任者の代理人もまた医師であり、医療責任者が不在の場合には、しっかり申し送りがされ職務が滞らないようにする必要があります。
- (3) 大会の医療責任者は後方病院との連絡方法、待機医師のオンコール体制や救急搬送手順の連絡プロトコルに基づいて地域の保健所や医療機関と連携をとる必要があります。プロトコルでは、特に COVID-19 に感染した疑いのある患者の隔離および移送方法を明確にする必要があります。
- (4) 大会主催者は、レガッタで COVID-19 の陽性事例が発生した場合に患者のすべての接触先を追跡できるようなシステムを考えておく必要があります。たとえば観客に感染者が出た場合は観客席の位置が特定できるよう工夫が必要です。
- (5) 健康調査の対応、トリアージや COVID-19 疑い症例の検査依頼に対応可能な医療スタッフ等も含め、現場の医療関係者は増やす必要があります。ゴール後に倒れこんだ選手の対応では適切な防護体制(マスク、フェイスシールド、ゴーグル、使い捨てゴム手袋など)を整えたスタッフが対応する必要があります。
- (6) 大会医療本部には、社会的距離の確保またはシールドされた治療場所、十分な換気、温水・冷水の手洗い場所、およびサージカルマスク、使い捨てゴム手袋、保護衣などの PPE(個人用保護具)の適切な供給のため十分な広さが必要です。
- (7) 参加者の体温をチェックのために、体温計(非接触型など)は十分に確保してください。

衛生管理

- (1) すべての活動場所と提供する施設は、社会的距離の確保を考慮して編成する必要があります。
- (2) 各会場のテント/部屋の入り口に、アルコールの手指消毒剤を用意する必要があります。窓が開く場合 1 時間に2回以上(1 回あたり 5 分程度)、窓を開け換気してください。

- (3) 食事場所や会議室に入るときは、入場時に手洗いが必須であり、必ず実施しなければなりません。
- (4) すべての認定ゾーン(アスリートエリア、VIP、メディア、大会主催者のワークスペース)には、手洗い設備を用意する必要があります。
- (5) 消毒用のふき取り布で会場の清掃スタッフは1日に数回すべての領域の共有設備(受付、計量場所の設備・器具・ドアノブ、電気のスイッチ、手すり、エレベーターのボタン、ゴミ箱、電話、共有のテーブル・椅子など)について洗浄・消毒を行ってください。清掃スタッフは、マスクや手袋を着用し、作業後に手洗いを徹底してください。
※設備の消毒は、0.05%次亜塩素酸ナトリウム液や 70%~80%のエタノールなど、当該設備に最適な消毒薬を用いてください。なお、次亜塩素酸ナトリウムは、金属部分及び人体には使用できません。 ※0.05%次亜塩素酸ナトリウム液は、家庭用塩素系漂白剤を水で 100 倍に希釈したものになります。
- (6) トイレ・便器は通常の清掃で問題ありませんが、不特定多数が使用する場所は、0.1%の次亜塩素酸ナトリウム溶液で清拭消毒を行ってください。トイレに蓋がある場合、蓋を閉めてから汚物を流すよう表示します。ハンドドライヤーは利用を止め、共通のタオルは禁止し、ペーパータオルを設置するか、使用者に個人用タオルを持参してもらってください。 ※0.1%次亜塩素酸ナトリウム液は、家庭用塩素系漂白剤を水で 50 倍に希釈したものになります。
- (7) 部屋のドアは可能な限り開けたままにする必要があります。開けていない場合は、ボランティアが開閉をして、ドアのハンドルに触れる人の数を減らしてください。
- (8) すべての部屋で衛生材料(ティッシュ、タオル、生理用品など)を安全に廃棄するための密閉容器を用意してください。ゴミはこまめに回収し、鼻水や唾液などがついたゴミがある場合はビニール袋に密閉してください。
- (9) 会場のゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前周知してアナウンスをしてください。

COVID-19 が疑われるケースの規定

- (1) 大会主催者は、対応計画の一部として、COVID-19 の疑いがあるまたは診断された個人のケアと隔離の手順を地域の保健機関と決めておく必要があります。
- (2) 競技会場の医療施設内に COVID-19 が疑われる人を評価できる隔離エリアを設置し、トリアージをする必要があります。
- (3) 隔離エリアには、手指衛生と呼吸エチケットを促進するための必要な物資を備えている必要があります。
- (4) 隔離エリアに入る医療スタッフは、フェイスマスク、使い捨てゴム手袋、ガウン等を含むガイドラインに従った装備する必要があります。これらの装備は予想される医療スタッフの人数と着替えることも考慮して数量と内容を医療責任者が決めてください。例えば必要なマスクの種類(外科用または FFP2 / N95)、使い捨てゴム手袋の使用、および防護服/ガウンの使用など。

- (5) 大会中に COVID-19 が疑われた場合、あるいは発症した場合には、定められたプロトコルに従う必要があります。これには以下の項目を含みます。
 - 1. 隔離室または隔離区域で人を隔離する。
 - 2. 大会主催者医師に連絡する。
 - 3. 治療、検査、継続的な隔離、および陽性結果が出た場合の接触追跡を含む緊急計画に従って行動する。
- (6) COVID-19 に感染した可能性のあるすべての関係者に状況をどのように通知するかを決めたプロトコルを作成して共有する必要があります。
- (7) 深刻な流行が発生する可能性がある場合は、多数の人々を隔離できる場所を計画で決めておく必要があります。

6. 危機の情報伝達と認識

- (1) 大会プログラムやマニュアル、ソーシャルメディア、Web サイト等を通じて、すべての規定がすべての参加者と観客に事前に明確に伝達されることが重要です。
- (2) 健康に関する注意事項は、レガッタ会場、会場施設と会場への順路などに目立つように表示をしてください。注意事項には、手洗いに関するアドバイス、身体接触を最小限に抑え、すべての人に高レベルの個人衛生と「咳エチケット」を思い出させ、奨励することを含めてください。
- (3) 会場アナウンスでも適宜 COVID-19 対策のアナウンスを積極的にしてください。
- (4) 大会主催者は事前に COVID-19 の危機情報伝達戦略を策定する必要があります。大会で COVID-19 陽性または陽性疑いのケースが発生すると、メディアに大きな注目を集めソーシャルメディアで不正確、不必要な偽情報が拡散されるかもしれないリスクがあります。
- (5) 大会主催者は、メディアの活動に関し外部情報伝達を管理する人物を任命する必要があります。噂、虚偽の情報については、ソーシャルメディア、国内メディアなどの監視をして、それらに早期に対応できるようにすることをお勧めします。

7. 大会参加者全員の行動

- (1) 以下の対策を講じることを推奨します。
 - ① 参加者の毎日の健康スクリーニング(検温)。
 - ② 選手、役員、観客、サポートスタッフの物理的な隔離。観客は国や自治体が要求する社会的距離の確保と大会のスクリーニング規則に従う必要があります。
 - ③ 選手は、レース以外の活動中はマスクを着用することをお勧めします。
 - ④ 水のボトルやコップなど備品の共有は禁止するべきです。
 - ⑤ 大会参加予定者が具合悪くなった場合は、会場に来ないでオンラインまたは電話で指定された連絡先に助言を求めてください。

- ⑥ 疑い患者や確定患者のためのプロトコールに基づく感染予防と管理策、および詳細情報を入手できるサイトについて、事前に全員に説明する必要があります。これは、代表者会議や日々の伝達事項ミーティングで再度確認する必要があります。
- ⑦ 各チーム代表者の詳細な連絡先情報が組織委員会に提供される必要があります。
- ⑧ 65歳以上の大会関係者または基礎疾患のある方(糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている者免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方など)は、感染した場合に重症化する危険性が高いことを通知してください。そういった方はより厳重な予防策を講じるか、参加しないことを勧める必要があります。
- ⑨ 参考資料 3.のチェックリスト(参加者用)を参考にしてください。

8. 会場施設

- (1) すべての活動場所と提供する施設は、社会的距離の確保を考慮して編成する必要があります。
- (2) 各会場のテント/部屋の入り口に、アルコールの手指消毒剤を用意する必要があります。
- (3) **食事場所や会議室に入るときは、入場時に手洗いが必須であり、必ず実施しなければなりません。**
- (4) すべての認定ゾーン(アスリートエリア、VIP、メディア、大会主催者のワークスペース)には、手洗い設備を用意する必要があります。
- (5) 消毒用のふき取り布で会場の清掃スタッフは 1 日に数回すべての領域(ドアノブ、トイレのハンドル、浴室の蛇口、テーブルの上、作業台など)を消毒してください。
- (6) 部屋のドアは可能な限り開けたままにする必要があります。開けていない場合は、ボランティアが開閉をして、ドアのハンドルに触れる人の数を減らしてください。
- (7) すべての部屋で衛生材料(ティッシュ、タオル、生理用品など)を安全に廃棄するための密閉容器を用意してください。

9. 参加者登録(accreditation;アクレディテーション)

- (1) 登録すべき参加者数は、参加人数の規制を定める地域の保健機関のガイドラインや要項に準じて制限する必要があります。
- (2) アクレディテーションエリア内に立ち入る人数を制限してください。立ち入る人は必要最小限とし、人数を決定する際には競技場の広さに応じて社会的距離の確保を考慮する必要があります。
- (3) COVID-19 に関する予防的処置に従わなかった場合、その人たちの参加登録証は破棄され、会場からの追放が促されます。

10. 社交行事

- (1) 大人数の集合を最小限に抑えるために、開会式や閉会式、その他の社交行事を計画しないことをお勧めします。
- (2) 他的小グループでの活動はリスクを評価の上で決めてください。
- (3) 応援団、チアリーディングなどの活動は禁止します。

11. 大会主催者スタッフおよびボランティア

- (1) 大会主催者スタッフおよびボランティアのミーティング、打ち合わせの規模は必要最小限にしてください。
- (2) ボランティアの研修・リハーサルは可能な限りオンラインで実施してください。会場で研修・リハーサルを行う場合には社会的距離の確保を必ず考慮してください。
- (3) 業務条件は地域の保健機関の勧告を遵守してください。

12. 観客エリア

- (1) 観客がいる場所では、社会的距離を確保する必要があります。この観点から、観客がレースを複数の場所から観戦できるように会場をレイアウトすることをお勧めします。
- (2) 会場内の移動の流れはすべて一方向でなければなりません。観客が通路の狭い部分に立ちどまらないようにしてください。会場への入場時には観客がマスクを使用する必要があります。
- (3) 観覧席がある場合は、座席間に1.5mの距離(またはその地域で要求される距離)を設ける必要があります。観客は観戦中常に適切にマスクを着用する必要があります(現地の規制が本ガイドラインの推奨事項に優先して適用されます)。

13. 広報・メディア

- (1) メディア関係者の登録は社会的距離の確保を考慮して制限してください。
- (2) 広報カメラマンの登録についても社会的距離の確保を考慮して制限してください。
- (3) メディア関係者に対しても他の参加者と同様に健康スクリーニングを実施してください。
- (4) メディア関係者、広報カメラマンの活動と関連し、ミックス・ゾーンを設けず、選手がレース後シャワーを浴びてから個別にアポイントを取って実施してください。これは関係者どうしの接触を制限するためです。具体的方法は広報委員会が適宜調整します。

14. 審判

- (1) 社会的距離が確保できない状況(審判艇やフィニッシュタワーなど)では、要員の移動/入れ替えを制限する必要があります。たとえば、同じ「チーム」の人々が同じエリアで仕事をするようにしてください。

- (2) すべてのエリア(審判艇/モーターボートおよびレガッタ施設を含む)は、1 日の終わりに完全に清掃および消毒する必要があります。

15. 各参加団体への注意事項

(1) 移動について

- ・ 参加団体は必要なサポートスタッフのみ派遣することを心掛け、移動人数を必要最小限としてください

(2) 宿泊、合宿施設(艇庫)

- ・ 宿泊のプランや合宿施設の利用規定は地域の保健機関の指針を遵守してください。宿泊中は社会的距離の確保に関する指導を遵守してください。

(3) 代表者会議、伝達事項ミーティング

- ・ 監督主将会議などのミーティングや組み合わせ抽選などで物理的に集合することを避けてください。グループ間の接触を避けるためです。
- ・ 組み合わせ抽選はヴァーチャルで実施してください。
- ・ 代表者会議などのミーティングで必要な資料は紙媒体を配布せず、メール送信やウェブ上で掲載するようにしてください。

(4) 参加登録

- ・ 12 頁の「9.参加者登録」を参照してください。
- ・ 各チームの ID カード(参加者登録証)の受け取りや参加者全員の登録については、各参加団体は代表者 1 名のみが受付をしてください。

(5) 選手エリア;休憩場所、ウォームアップエリア

- ・ 各参加団体は各々が定めた場所を使用するテントや備品について責任をもって清掃と消毒を実施してください。
- ・ 大会主催者は指定した休憩エリアやウォームアップエリアの清掃、消毒を実施してください。
- ・ 選手エリアの配置については社会的距離の確保の条件を満たすことが必要です。
- ・ 大会主催者は選手エリアの備品の清掃のために除菌シートを用意し、清掃状態を監視してください。

16. 表彰式

- (1) メダル授与式の開催の必要性は慎重に検討されなければなりません。表彰式の形式は、地元の保健当局の要求度と指針を考慮に入れて会場において最終決定します。

(2) オプション A: 通常どおり開催される表彰式(リスクカテゴリは低またはなし)

- ① 各種目の表彰式は、その種目の決勝 A の後に、通常どおり開催されます。
- ② メダル授与者は、マスクと使い捨て手袋を着用する必要があり、メダルを首にかけるのではなく、選手に手渡します。

- ③ 表彰式の式典全体を通じて、可能な限り社会的距離の確保に関する規制を遵守する必要があります。

(3) オプション B: レース終了時に行われる表彰式

- ① レガッタのすべての決勝 A 終了後、表彰式は 1 つの式として一緒に開催されます。
- ② 選手は決勝 A を終え、艇を降りて表彰式の前にシャワーを浴びて準備をする時間があります。
- ③ 表彰式エリアは「一方向」のシステムを運用し、選手は式典の前にステージに上がります。
- ④ メダル授与者だけが、メダリストに加えて表彰式の参加を許可されます。
- ⑤ メダル授与者は、選手と握手したり、メダルを首にかけたりしてはなりません。
- ⑥ セレモニーに参加するボランティアは 1 人だけで、選手ごとに別々のトレイにメダルを準備します。ボランティアは使い捨てゴム手袋とマスクを着用することを強くお勧めします。
- ⑦ ボランティアは、表彰式の合間にトレイを消毒する必要があります。
- ⑧ 混合ゾーンと表彰式の待合室で使用された水ボトルは、すぐにカバー付きのゴミ箱に捨てる必要があります。

(4) オプション C: レガッタで開催される表彰式なし

- ① レガッタでの表彰式は行われません。
- ② チーム代表者は、決勝 A に続いて、会場の登録/認定デスクからメダルを獲得したクルーのメダルを取りに行くことができます。

III. 付表および関連資料

付属資料1:大会前健康調査質問票

名前:	
所属:	
イベント中の滞在場所:	
電話番号:	
電子メールアドレス:	
過去14日間に訪問した国:	

質問:過去14日以内に、あなたは…

	はい	いいえ
コロナウイルスCOVID-19と診断された人と密接に接触しましたか？		
COVID-19患者に直接ケアを提供しましたか？		
コロナウイルス疾患COVID-19を患っている患者がいる閉じた環境を訪問または滞在しましたか？		
COVID-19患者と同じ教室環境を共有して、非常に近接して共同作業しましたか？		
COVID-19患者となんらかの移動手段と一緒に旅行しましたか？		
COVID-19患者と同じ世帯に住んでいますか？		
隔離されていましたか？		
PCR検査で陽性とされたことがありますか？		
現在および過去14日間に、次の症状のいずれかが発生しました。		
<ul style="list-style-type: none"> ○発熱 ○咳 ○疲労 ○呼吸困難 ○筋肉痛 ○喉の痛み ○胸の痛み 		

○鼻水・鼻づまり ○頭痛 ○悪寒 ○吐き気/嘔吐 ○下痢 ○無嗅覚症/味覚異常 ○しもやけ様症状		
--	--	--

参考資料

1. 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」(2020年5月25日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000633501.pdf>
2. 厚生労働省「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントをまとめました(新型コロナウイルス感染症)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html
3. 日本スポーツ協会 スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインの改訂について(2020年5月29日)
https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jspo/guideine_checklist2.pdf
4. スポーツ庁 スポーツ関係の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインについて
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/detail/jsa_00021.html
5. Key planning recommendations for mass gatherings in the context of COVID-19
Interim guidance, 29 May 2020
<https://www.who.int/publications/i/item/10665-332235>
6. Guidance for the use of the WHO Mass Gatherings Sports: addendum risk assessment tools in the context of COVID-19, 30 April 2020
<https://www.who.int/publications/m/item/guidance-for-the-use-of-the-who-mass-gatherings-sports-addendum-risk-assessment-tools-in-the-context-of-covid-19>
7. Covid-19 Pandemic – Return to Staging Regattas, Advice for Event Organizers and Member Federations in 2020, 国際ボート競技連盟(FISA; World Rowing)
http://www.worldrowing.com/mm//Document/General/General/14/23/14/ReturntoRegattaspostpeakCoronaviruspandemicFISA110620FINAL_Neutral.pdf
8. COVID-19 主催者予防ガイドライン簡易訳(英和対比)、国際トライアスロン連合(ITU)、公益社団法人 日本トライアスロン連合
<https://www.jtu.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/05/3f9bc11cc84daf1d96bc126d3b4b3cac.pdf>
9. COVID-19 国内向け運営ガイドライン「大会開催に際して注意する点」、公益社団法人 日本トライアスロン連合

<https://www.jtu.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/05/c89383a6ff1aa780acb2a237b11eb5dd.pdf>

10. ワールドラグビー「プレー再開(RTP)のガイドライン」(日本語版)

<https://playerwelfare.worldrugby.org/?documentid=219>

10. 「日本国内プロゴルフトーナメントにおける新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」ゴルフ関連 5 団体新型コロナウイルス対策会議

11. 「新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」日本船舶代理店協会